

～ Serving the *Community* and Supporting the *YMCA* since 1976 ～



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ : *Enhancing Global Brotherhood*

2025
10月



2025-26 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

2025 10
長野ワイズ 15 周年！

10 月に入って急に寒くなり、身体の調整が難しい今日この頃。日本に初の女性首相。ジェンダー学習中の当クラブとしては国の政策がどう男社会を変えるのか、注目していきたい。本ブリテンは長野ワイズ 15 周年例会での体験を取り上げた。子ども達はハロウィーンを楽しんだようだ。



[写真メモ] 栄村の「トマトの国」で長野ワイズ15周年特別例会開催。クラブはその設立半年後東日本大震災で被災した村の復興支援を続けた。例会では当時消防団を指揮した方たちから現場の話を聞き、翌日は栄村震災復興祈念館を見学。ゆとりのプログラムのお陰で、心置きなく話し、久しぶりに対話の喜びを味わった。JR森宮野原駅で名残りを惜しみつつ別れた。



今月の聖句

「実に神は、すべての人間に富と財産を与えてこれを楽しみことを許し、各自が受ける分を受けて自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である。こういう人は、自分の生涯のことをあれこれ思い返さない。神が彼の心を喜びで満たされるからだ。」

旧約聖書 伝道の書 5 章 19-20

11 月「さざんか」例会

日時：11 月 17 日（月）10:00 ～ 12:00

会場：市民活動サポセン（パルコ 9 階）

プログラム：もう少しジェンダーを語ろう

11 月 夜談会

日時：11 月 10 日（月）午後 6 時～8 時

会場：サイゼリア（浦和駅東口）

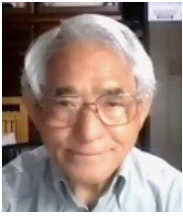
▽ 気楽に知り合い、笑いながら見識を深めるさばけた市民の出会いと集いの場（覗いてください）



◆◆◆◆エッセイズ◆◆◆◆

◆「栄村コシヒカリ特別例会」に参加して

上松寛茂



10月25・26日とY's東日本区あずさ部の長野クラブの設立15周年の「栄村コシヒカリ特別例会」に埼玉クラブから浅羽会長と二人で参加した。同クラブ設立5ヶ月後に起きた東日本大震災の翌日震度6強の大地震が襲い、当時人口2300人の過疎村で死者3人、住宅全半壊、一部損壊を合わせて500棟を超す大災害となった。その当初から長野クラブは同村の支援活動を続け、その一環としてこの特別例会を栄村で開催することになった。

例会は10月25日(土)午後3時、湯田勝彦クラブ会長の開会点鐘に始まり、聖書朗読・祈りに続き、以前会長だった森本俊子書記がクラブ15年の歩みを語った。第2部の卓話は、当時の被災者救援に携わった斎藤真吾、福原一男両村議会議員(共に元消防団)が救援の現場や復興の様子を語った。

小生はJR大宮駅発の新幹線にタッチの差で乗車できず、3時間遅れで17時過ぎ到着。卓話は聴けずじまい。反省しきり。



夕食・懇親会では、早速「栄村産コシヒカリ・青倉米(あおくらまい)」で15周年を祝った。転出や高齢化で耕作が困難な水田を守るため、青倉集落の若者が立ち上がり、共同で生産した栄村産コシヒカリは、雪解け水やブナ林から流れ出る天然水で育てた村自慢のお米だ。新潟・魚沼産コシヒカリに負けない。今朝も味わった。美味しいね。やはり。1キログラムをお土産にいただいた。

参加者は長野クラブの6人をはじめ男女ほぼ半々の計28人。参加クラブは長野、東京5クラブ、甲府3クラブ、松本、富士五湖、伊東、大阪長野、埼玉の14クラブ。JR飯山線の雨降る森宮野原駅で姿が見えなくなるまで見送ってくれた長野クラブの

メンの温かいおもてなしに感動して帰途に就いた。ワイズの在り方の議論がいつも話題に上る。こうした合同例会の交わりの中で新たな道筋が見つかるような気がしてならない。◆

* 実は前日(24日)が上松メンの80歳の誕生日。夕食会では皆がハッピーバースデイを歌って祝った。

◆ 初対面でもワイズはやっぱりワイズ

浅羽俊一郎



温泉大好きな上松メンと、温泉嫌いの私とが長野クラブ15周年ということで長野県栄村での特別例会に参加してきた。

私は埼玉クラブに転会するまで長野クラブと同じあずさ部のクラブに所属し、長野クラブの例会には2回出席し、私が部歌「あずさの道」を作曲した時以来、ハンドベルの森本メン(当時の会長)とは親しくさせてもらっていた。区大会で善光寺を回ったのも忘れられない。

だから特別例会で懐かしい顔に久しぶりに会えて当然嬉しかった。が、それ以上に嬉しかったのは初対面のメンともすぐに懇意になれたことと、そこにこそワイズの面白さがあると気づいたことだ。

思うに、すぐ親しくなれるということは、そう簡単なことではない。通常は何か共通の知人や趣味や出身などの話から徐々に親しくなる。でもワイズはその時間が短い。年に1、2回しか顔を合わせないメン同士でも胸襟を開いて話せるのは、メンがそもそも同じような夢や課題、価値観を持ち、且つ「他者への関心」があるからではないだろうか。

今回も夕食後の二次会では持ち寄りの酒とおつまみとで盛り上がり、三次会に残った連中はすでにクラブの垣根はなく、ツイン部屋に10人ほどが2、3人に分かれて延々とワイズ談義が続いた。

あるメンがいみじくも述懐したことが印象に残っている。ワイズとは何か?彼女に言わせると「YMCAを支える団体」という教科書的な説明はワイズの本質を突いていない。むしろ「生きる」ことではないか、と。90歳過ぎて認知症が出て例に出たい思いのメンと、歓迎するメン。この熱意や繋がりが育まれるところにワイズの魅力と本質があるのではないかと。(“Eureka!”)初めて会うワイズもやっぱりワイズ。この世界はさらに広がる!



温泉好きの上松メンと温泉苦手な浅羽メン。森宮野原駅にて

◆ ユースリーダー、ナリソナさんの紹介

マダガスカル YMCA のナリソア・アンドリアナリボは 29 歳です。すでに YMCA で大きな役割を果たしている。環境活動や若者のエンパワーメントに関わる彼女は 2016 年、地元の環境クラブを通じて YMCA に入会し、すぐに地域社会への働きかけと熱意で、アフリカ YMCA 同盟の「Young Advocates for Change」と「Subject to Citizen」を通してアフリカ全土における若者のエンパワーメントについて深く学んだ。2019 年には世界 YMCA チェンジエージェント第 4 期生、2022 年からはアフリカ YMCA 同盟と世界 YMCA の両方の執行委員会の委員を務めている。



ナリソアにとって、ビジョン 2030 の柱の中で最も共感を呼ぶのは「意義ある仕事」。「若者はキャリアの道の中で様々な困難を抱えており、明確な支援体制がない」と言う。グローバルガバナンスの責任に加え、彼女は地元の YMCA 環境クラブのリーダーを指導し、農村地域の女性のエンパワーメントに焦点を当てた協会の共同設立者として、固定観念に挑戦し、職業スキルを育成するためのワークショップを提供している。「研修とサポートを受けて自信が付き、高レベルの意思決定に携わる方法を学び、自分の意見を発信できるようになりました。」

ナリソアは現在、世界の YMCA の方向性を定めるグループなどに関わっている。地域社会で正義と変革のために活動する若者たちの勇気からインスピレーションを得ている。それを原動力に、彼女は若者の声が YMCA の意思決定に影響を与え、機会を創出する場であり続けるよう努力している。

* YMCA は若者が主体的に社会に働きかけるよう、長期的に働きかけています。

* 英文記事をグーグル翻訳/加筆しました。(浅羽)

埼玉 YMCA が指定管理者として運営している所沢市立こぼと児童館では様々なプログラムや季節行事を行っている。10 月 29 日（水）に行われたのは「ハロウィンカーニバル」。午前中は乳幼児親子を対象に、歌あそび、手遊び、ハンドクラフトなどを楽しみ、職員の仮装寸劇を見ながらおやつを食べた。ついで午後は小学生タイム。児童館が「呪いの館」となってしまう、勇気あるこども達が呪われたお菓子をとり、いつもの児童館を取り戻すというストーリー。普段児童館を利用している小学 4・5 年生 6 名が企画・準備を行った。数々の仕掛けに怖がらずに挑む男の子や、泣きそうなくらい怖がっている女の子など様々だったが、企画してくれた小学生は充実感もあり楽しんでいた。低学年の児童は「来年は私たちが企画したい」と言ってくれた。私たちが目指す「こども達による、こども達のための児童館」に向けて、そのきっかけになれば、と願う。(こぼと児童館館長 櫻井徹 記)



左上：職員が仮装
左下：乳幼児の部
下：小学生の部



活動・会議メモ

◆ 10 月「夜談会」

今回は珍しく大学 1 年の M さん（19 歳）が参加してくれた。彼は浅羽会長がオンラインの青少年学習グループで知り合い、YMCA やワイズのことを話すうちに覗いてみたいと、夜談会に顔を出してくれた次第。後で聞いたら、離れたところでしばらく様子を見て、それから意を決して参加したそう。仲介の浅羽がよりによって先約があつて来れないというので、常連の皆さんで、M さんに気を使いなが

ら、話し合いを進めてくれた。浅羽は閉会 10 分前に到着し、M さんと少しだけ感想を聞いたところ、11 月も来るかもしれない。（浅羽 記）



出席：上松、高岡、M さん、大輪、浅羽 M、浅羽（遅刻）

◆ 10 月「とんぴがくるり」例会

この日のプログラムは今年度最初のジェンダー学習会。テーマは「キリスト教社会とジェンダー」日本基督教団 久美愛教会の牧師であり、所沢クラブのメンバーの澁谷宏祐牧師に最初に発題をお願いし、それから自由な意見交換とした。澁谷メンは用意したカトリックの団体が発行するジェンダーに関する分かりやすい資料を参照しながら、教会は信徒の多数が女性だが、いまだに男性が意思決定している現状を説明。たまたま参加者に元牧師夫人もおられ、会の後半は牧師夫人という教会独特の役割と難しさ、また牧師が家庭を維持する経済的困難なども知ることができた。澁谷メンはキリスト教社会を知らない参加者にも終始分かりやすいように話してくれた。お疲れ様でした。



今回は同じ日本でも異なる狭い社会におけるジェンダー問題に目を向けることができた。

アピールでは櫻井主事が 11 月 3 日のチャリティランの意義や過去の苦労話を聞かせてくれた。集合写真では今月初めに事務局から送られてきた「ワ

イズメンズクラブ」が印刷された大きなノボリもデビューすることになった。どのように活用するか今後検討することになる。

ニコニコ自由献金は 10,000 円。感謝。

[ゲスト・ビジター] 浅羽 M、小仁、澁谷、武藤、森下、森田、[メン] 浅羽、伊藤、上松、衣笠、櫻井、高岡、水無瀬（ズーム）（あいう順・敬称略）



仲間からの便り



◆ 今月の俳句 堀和光二郎メン（俳号 愚道）

デパートを覗きマネキン冬支度

久しぶりに伊勢丹に行きました。マネキンさんが冬の装いになってました。



バス旅行窓の外はアワダチソウ

せっかくのバス旅行なのに山に入るとセイタカアワダチソウの黄色ばかりでした。

房総の秋の味覚に舌鼓

バス旅行の行先は房総の南端の千倉にしました。海岸の波を観ながら美味しい刺身をいただきました。

◆ 浅羽メン 10 月 18 日見沼市民田んぼでハサかけ作業に参加しました。毎週末来ている高岡メンには頭上がりません。今年はカメムシ禍もなく結構な収穫のようです。これから脱穀作業です。



統計	出席	会員	ゲスト/ビジター
10 月夜談会 (10/13)	6	3	3
10 月例会 (10/20)	13	7	6



ワイズメンズクラブ 案内

ワイズメンズクラブ国際協会 (Y's Men International) は青少年教育団体 YMCA を支援する国際的奉仕クラブで、若者と地域への奉仕と、国内外の交流を大切にします。肩書き/性別/政治/宗教/年齢差を問わず皆対等です。奉仕活動に挑戦してみたいという方に向いています。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動しています。先ず月例会の雰囲気味わってください。年会費 4 万円ですが、ゲストでも皆と一緒に楽しく活動できます。

* 詳細は浅羽会長まで。(090-7426-5553)